

特別な客人を迎える、最も格式の高い玄関。間口も広く、使われている材も特別なものである。

内部の式台は玉杵櫨しきだい たまもくげやきの一枚板。木挽こびきが二枚に製材し、式台と奥に見える地袋板ぢぶくろいたに使用した。

内外には、松薪まつまきで焼いた黒色敷瓦やすりの四方を鑢掛めけして目地無めしで敷き詰めている。

この瓦一枚が通常の瓦一畳分 (90cm×180cm) と同等の価格であったと言われる。

竹格子と障子が入った欄間らんまの下に、雨戸仕立てあまどの扉。扉中段には

杉板がスライドして風を通すことができる無双窓むそう、下段の

杉材は、なぐり仕上げを施している。

おもてげんかん
表玄関

扉下の桜色の石は岡山まんなりいしの万成石、
雨落縁石あまおちふちいしには幅 14~15cm の京都くらまいしの鞍馬石が 35 個、用いられている。

また、ポーチの天井板は神代杉しんたいすきの一枚板。(鞍馬石を踏まないようにご覧ください)